

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
口腔保健学講座 特任教授 中野 雅徳 先生
2. 演 題 「顎機能障害—咬合との関連、ブラキシズムとの関連—」
3. 日 時 平成26年10月23日(木)
17時00分 ~ 18時30分
4. 場 所 1号館9階講堂
5. 内 容

顎機能障害(顎関節症)は咬合異常やブラキシズムなどのパラファンクシオンをはじめとする種々の要因が、患者個々で異なるメカニズムによって起こるマルチファクター、マルチメカニズムの症候群であることを否定するものはいないであろう。顎機能障害を引き起こさないように、適切な咬合を補綴装置等に付与することは重要であることは言うまでもない。ここで厄介なのは、咬合異常が仮に発症要因として深くかかわっていたとしても、関節円板の転位等にしばしば見られるような不可逆的な変化であれば、咬合治療の効果が上がらないばかりか、精神心理的に問題のある患者では、返って症状を悪化させる場合もありうるということである。目の前にいる患者が、どのような咬合異常があり、どのようなメカニズムと時間経過で発症し、現在も症状を持続(増悪)させているのか? 病態は可逆的であるか否か? 咬合をスプリントなどでテンポラリーに、あるいはパーマネントに改善しなくても、顎関節への負荷や過剰な筋活動の誘発を減弱させることができるのか? 等々が根拠をもって診断できることが望ましいが、現実にはまだそこまで行っていない。我々の研究や臨床の知見、考え方を提示し、課題を皆さんと一緒に考えたい。

連絡先: 三浦 宏之(岡田 大蔵)(摂食機能保存学分野 内線 5521)